

「京都府IT推進基本構想・行動計画（仮称）の策定に向けての提案」

平成 13 年 10 月 18 日

綾部ITワークス

【1】『地域特性、地域単位で取り組むべき課題について』

新京都府総合計画によると、新しい総合計画は三つの地域に分けてそれぞれの地域特性を継承創造しようとしてされており大きな期待が持たれるところです。

地域の特性、現状、課題について、地域に居住する者の視点から考えます。

綾部の問題点の一つから、「交通手段（特に高齢者、子供）・物流」について。

- 1) 利用者の減少による路線バスの廃止や減便で、通院や公共施設、市街地へ足を運ぶことが困難な状況がある
- 2) 近畿地方の市の面積では4位という広い範囲を持つ地域であり奥上林地区からは病院がある市街地まで車で30分以上を必要としている。
- 3) 遠隔地では市街地へ通えないため日常の食料品の入手は移動販売車に頼る事が多く生鮮食料品などは限られた範囲、種類でしか購入できないのが現状である。
- 4) タクシー等利用は、遠隔地のため交通費が高く日常利用は負担が大きすぎる。

1)、2)、4) についての現状とかがえる問題

【現状】

「あやべ福祉フロンティア（NPO法人）」...移送ボランティア組織が遠隔地の高齢者のため、既存の交通機関を補完する活動している。

- ・ 実質稼働台数(自動車)が約50台/1日にもなり、月間にすると1,000台以上を稼働している。
- ・ 全国的に見ても稼働率がかなり高い。

【問題】

- ・ 現状でも、移送を希望する人が急増しているにも関わらず配車できない。
- ・ 将来的にみても高齢化が進む中で、交通手段の確保が急がれる。

3) についての現状とかがえる問題

【現状】

- ・ 一部介護サービスを受けている方は訪問のついでに買物をお願いしている。
- ・ 企業の給食配膳サービスの利用

【問題】

- ・ 遠隔地のからは日常的に買物に行けないので、買物に行った場合まとめ買いをする事になり荷物が多く高齢者、身体の不自由な方には負担が大きい
- ・ 介護サービスの中では買物は時間外になり企業はコスト割れするので消極的
- ・ 給食配膳サービスはコスト高で年金生活者の家計を圧迫している

【2】『デジタルデバイドの解消が、医療、福祉、高齢者対策に直結。有効に機能しだす鍵』

現在、整備が進められている交通インフラ（京都縦貫道）の完成と同時に、府下を縦貫するブロードバンドなど高度通信インフラの整備、そして地域地域におけるITネットの構築、それに伴う技術の共有化が重要と考えます。

特に地域におけるITネット構築は通信インフラが整備され行政のみならず広く府民、企業に解放されること、また一人でも多くの地域住民がITのリテラシーをもつことなどは、地域単位で取り組まなければならない課題であると考えます。

また、高齢化が著しく進んでいるにも関わらず、十分な福祉・医療設備が整っているとは言えないため、ITを活用した「高齢者にも安心して生活できる環境整備」として一人暮らしの老人宅が少ない現状をかんがみ、具体的な対策、工夫、実行が急がれます。

【3】『地域内での気運の高まりとITを介した仕組みづくりについて』

北部にもIT関連の団体が次々に発足し、綾部にも、このほど私どもの任意団体綾部ITワークス(AITW) (<http://www.ait-works.org/>)が発足しました。

また、地域通貨の導入に向けて、研究会(NEXTが中心)が重ねられて準備がすすめられておりさまざまな方面に於いて地域内での市民レベルでの活動の気運が高まりつつあり、他地域や異業種との人材交流も活発化している状況があります。

綾部市の現状から考えて今後、暮らし易さ、安心、便利さの点で周辺地域でのITの果たす役割は今まで以上に大きいと考えます。
街全域に等しく情報が行き渡る『仕組み』、地域においての「情報化」を市民レベルで実現するためには、地域の情報を共有し
『情報の集積 加工・整理 コーディネート 提供・発信 利用』する『場』
の確立が急がれます。

具体案として、地域の情報化を推進するために「情報ステーション」の設置を提案します。

高齢化が進む地域での労働人口を効率よく活用して行く為に活発化している様々な「地域の人財」の活動のサポート体制、身近な暮らしに直結するITを介した有効な仕組みづくりにお力をお借りしつつ取り組んでいきたいと考えております。

ひいては京都府活性化の足がかりとなり、新たな雇用も生まれることを期待しています。

以上

【提案】

移送ボランティアの効率的な稼働を補完し、現状の”人”の移送のみならず、”物”の移送サービスをも含めた”総合移送システム”を構築するためにITの導入、積極利用を提案します。

(1) 周辺地域から市街地、工業団地への通勤車を利用するための乗合システムの構築

- a) 通勤途中に乘せていける人が登録する(車種、乗車人数、通勤先、時間、etc を登録)
- b) 市街地、その他へ行きたい方が入力(*) (目的地、日時、身体状態、etc)
- c) * は各家庭にタッチパネル等の入力装置を準備し高齢者に対応する
- d) 病院、公共施設、スーパーなどに入力装置を設置し施設利用者が施設より移動する時間を入力し乗合をマッチングさせる
- e) 移送する側への支払いを小額決済できるシステムの構築
現在綾部に置いて導入計画がある「地域通貨」での支払いも視野にいれてシステムを構築する

(2) 各家庭への食料品、日常生活用品の発注配送システムの構築

- a) 各家庭に設置されたタッチパネルを操作する事により市街地のスーパーへ直結し画面で商品を見ながら注文する
- b) 配送はタクシー会社、宅配会社、移送ボランティア等が担当する
- c) 商品購入代金を決済するシステムを構築する

上記2点のいずれもが、遠隔地における人・物・金の流通が課題になっているのが現状です。都市部から比べて移動距離、移動時間がかかり高齢化が進む地域において流通の効率化はITの導入で補完することが望ましいと考えます。

綾部の現状においてITの導入、システムの構築により考えられる効果

【システムにおける効果】

- ・ 利用者の利便性が向上する。(交通機関の補完機能を充実)
- ・ 運用管理が容易になり、更なる利用者増にも対応できる。
- ・ 追随するサービスの起爆剤になり得る。
- ・ 周辺地域における交通、物流の地域循環型のビジネスモデルとなりうる
- ・ 各団体との交流と協働の促進
- ・ 情報の蓄積(データベース化)により将来の新規事業、サービス、雇用促進などへの材料となる

【生活環境における効果】

- ・雇用確保の繋がる可能性を秘めている。
- ・「乗合」によるリアルなコミュニケーションの活発化
- ・遊休資源の活用(高齢者の労働力、遊休施設など)
- ・独居老人宅での緊急時の配慮(安否確認、緊急信号発信)
- ・広い意味で環境問題(排ガス軽減)に繋がる。
- ・市民のボランティア活動への意識向上と理解がすすむ。

(補足) 周辺地域においても都市部の例に漏れず隣人間のコミュニケーションの低下している中で
ITが媒介になりコミュニケーションの活発化されることに期待します。

【システム導入後の発展性について】

- ・公共施設等の予約
- ・災害情報、行政情報の発信
- ・病院の診療予約、簡易在宅医療への対応の可能性
- ・双方向コミュニケーションへの対応